



3月議会 笹倉みどりの一般質問より

学校給食の食材の情報開示と 安全性の確保を求める

豚肉の産地偽装事件を受けて、学校給食食材の産地確認について市の認識を問いました。

答弁は「一般に流通する輸入品であり安全性には問題はない。偽装されたかどうかを確認するのは困難」というもので、産地偽装への問題意識が全くないことに驚きました。

一方で、野菜の残留農薬検査は実施しています。食肉についても、納品書だけでなく、より詳細な情報開示を求め、業者の経営状況なども把握すべきです。他にもゲノム編集されたトマトを使わないこと、生産者と子どもたちが互いに顔の見える関係を作ることが食育だけでなく、農業経営の持続にも繋がることを訴えました。

町田市職員の ジェンダー平等を問う

市の職員給与の男女差、管理職に占める助成の割合について質問しました。

答弁は「平均給与は男性736万円 女性624万円で、100万円の差がある。要因は男女の年齢構成と役職者数の違いにある。管理職に占める女性の割合は20%。近年、昇任選考を受験する女性が減っている」とのこと。

そこで、その対策について質問したところ、「女性職員の受験意欲を上げるために、女性管理職との座談会や市長とのオフサイトミーティングの開催、女性管理職インタビュー記事の庁内報への掲載、育休取得中でも受験可能とするなどに取り組んでいる」との答弁でした。



日本は、身体と性自認が一致し、異性愛者であり、お金に困らず、健康で、世話をしてくれる人(妻・母など)がいる男性を「標準」として制度設計されており、その特権を享受している男性たちが意思決定をするジェンダー後進国です。この社会構造を変えるには、すべての施策をジェンダーの視点で見つめ直すと同時に、普段の生活の中でも意識していくことが必要です。

3月議会で決定した 2024年度 町田市の施策

新たな学校づくり計画(市立小中学校の統廃合)バスの導入ができないか

通学距離が長くなる子どもたちのために改めて議会としてスクールバス導入を決議しました。防災拠点が減ることへの不安の声もあります。市は計画全体の点検をするとのことですが、何より子どもたちの意見を取り入れること、地域ごとの事情をしっかりと反映させることが必要だと考えます。

中学校給食センターが いよいよ始まります

今年度の2学期から堺地区、3学期から鶴川地区で、来年度の1学期から忠生・小山地区、2学期から南地区で中学校の全員給食が始まります。

市立小中学校に通う第2子以降の給食費が4月1日から無償となります。本来はすべての子どもが等しく無償で質と量の安定した給食を食べられることが基本ではないでしょうか。その一歩となることを願います。

子どもにやさしいまち条例 5月5日から施行

子どもの権利について考えるイベントや動画配信が行われます。条例が根付くよう活動していきたいと思えます。

児童手当の所得制限が撤廃

国の支援で10月から児童手当の所得制限が撤廃され、支給期間が高校生年代までになります。扶養手当も11月から所得限度額の引き上げと、多子加算の見直しによって制度が拡充されます。

そこでいいの? 野津田公園のスケートパーク

野津田公園の湿性植物園に建設予定の「スケートパーク」は昨年度に加え、新たな基本設計費が計上されました。面積の拡大や、夜間照明も検討されています。希少種への影響や貯水機能が担保されるかなど、多くの懸念があるため、今後も注視していきます。

(仮称) 町田市国際工芸美術館 計画は止まらない

芹ヶ谷公園に建設予定の「(仮称) 町田市国際工芸美術館」の建設費43億円(当初より10億円増額)が決定しました。地域住民や活動団体の連名の予算増額に反対する請願は否決。私が所属する「まちだ市民クラブ会派」は市民の意見交換の場作りと市内事業者参入を条件に、予算凍結の決議を提案しましたが否決。「資材高騰と働き手不足の今、なぜ強引に進めるのか。設計変更ができないのか」という市民の声が高まる中、議会が予算にストップをかけられず、悔しい結果となりました。

「町田市障がい者差別をなくし誰もが ともに生きる社会づくり条例」制定

この条例の目的は、障がいを理由とする差別を解消することです。「市・事業者」に対し、障がい者への不当な取り扱いを禁止するもので、差別に関する相談体制と紛争解決の仕組みを定めています。

町田・生活者ネットワークの…

議員は交代制

議員は議員報酬の一部を生活者ネットワークに
寄付し、市民の政治活動に活かします

選挙はカンパとボランティアで
郵便振替口座 00170-1-411651
町田・生活者ネットワーク

